

会 議 記 録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 21 年 11 月 20 日 (金曜日)	開催時刻	13 時 30 分から 15 時 18 分
会議名	丸子地域協議会 (平成 21 年度第 8 回)		
出席委員	浅倉委員、生田委員、片桐委員、木下委員、笹井委員、笹沢委員、滝沢 (俊) 委員、滝沢 (浩) 委員、竹花委員、土屋委員、成澤 (啓) 委員、成澤 (み) 委員、村松委員 【欠席】大森委員、倉沢委員、甲田委員、武井委員、本間委員、宮坂委員、柳原委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、佐藤センター次長兼地域振興課長、大平地域政策担当係長、中村地域政策担当		

会議次第

- 1 開会 (佐藤センター次長)
- 2 会長あいさつ (片桐会長)

早いもので合併して 3 年半が経過したが、それぞれ自治会の要望等については、それなりにきに対応していただいていると聞き、一体感の醸成も徐々になりつつあると思っています。そんな中で組織が大きく変化したので、職員には大変ご苦勞をされたという話しも聞いています。地域協議会もなかなか思うように運営ができていませんが、これからの地域内分権を目指して、自治会のあり方、地域協議会の役割というのは大変重要になってくると思います。皆様方に地域協議会の強化策について真剣に議論していただいているので、必ずや後に成果が現れてくると思います。どうか今後もよろしくお願いします。

3 調査研究事項

(1) 全体会議

・ 第 1 分散会報告 (委員)

「地域協議会の役割の強化策」「地域全体の発展策」「地域予算の活用法」について、第 1 分散会で話し合ってきた内容について報告。資料 1 のとおり。

・ 第 2 分散会報告 (委員)

「地域協議会の役割の強化策」「持寄分基金の活用」等について、第 2 分散会で話し合ってきた内容について報告。資料 2 のとおり。

(会長) いただいたそれぞれ分散会の報告を踏まえ、全体としてどういう方向で進めていくかご意見をいただきたい。

地域協議会の役割の強化策について

地域全体の発展策・地域予算の活用法について

主な意見等

(委員) 地域内分権に向けて、自治会、協議会のあり方を明確にしていくために、自治会と地域協議会の役割の分担、協議会の目的について協議をする場を作ることを、意見書

に盛り込んでいっていただきたい。

(事務局) 第1・第2分散会の考えを一つにまとめるため、分散会の代表者、正副会長とで別室で協議したい。

分散会代表者・正副会長とで協議。

(会長) 第1・第2分散会の今までの議論の経過を事務局でまとめていただいた。

協議会のあり方に関する意見書(案)を配布

(事務局) 報告を踏まえ今まで協議会で出されたご意見を文章化した。「協議会のあり方に関する意見書(案)」について説明。これをたたき台としてご意見をいただき、来月の地域協議会で成文化していければと思う。

資料：協議会のあり方に関する意見書(案)

主な意見等

(委員) 第4の地域自治センターのあり方については、重要な問題も含んでいると思うので、触れていただいたことはありがたい。意見書については、まとめる意義は二つある。

「当局の指導助言を期待するものである」という当局へ出すことを前提に書かれているが、我々の2年間の活動をまとめて次期地域協議会に参考にしていただき、活動を効率的に進めてもらいたいという趣旨が第一義にあると思う。その二つを分けても一緒でもいいが、二つの目的が達成できるようにまとめることをお願いしたい。役割の強化策については、議論の中で具体化した活動にはなっていないもの例えば、地域協議会が自らいろんなところへ出てほかの組織、団体と提携する等の意見は前々から出ているが、やっていく必要があるということをもう少し強く方向付けをしておいたほうが良い。地域予算の防犯灯LED化については、具体的に読んだ人がもう少し理解できるところまで書き込んだほうが良いのではないか。以上、3点ご意見として申し上げたい。

(会長) ただいいただいた意見等を盛り込み、意見書案を送り、次回地域協議会で意見をいただき決定してまいりたい。丸子から意見書が出れば、まちづくり協働課では、次期に向けて地域協議会のあり方等検討していただく参考になるのではないか。

・わがまち魅力アップ応援事業の審査方法についてについて(地域振興課)

(事務局) わがまち魅力アップ応援事業の審査方法の改善(丸子地域案)について説明。11月4日に市内各地域の担当者打合せ会議を開催し問題点等について話し合いをしてきた。以前に委員皆さんからいただいた意見についても出してきた。4~7ページについては昨年の募集チラシ、8~9ページは「個性あるふるさとづくり事業(自治会対象)の選考要項」、10~11ページは「特色あるまちづくり応援事業の選考要領」。この募集チラシと選考要領については全市共通のもの。丸子地域案について事務局案として説明。なお、わがまち魅力アップ応援事業の来年度募集については、1月1日号の広報うえだで募集記事を掲載する予定で、募集期間は1月25日から2月19日、3月の地域協議会でプレゼンテーション選考を行う予定。

資料 1: わがまち魅力アップ応援事業の審査方法の改善 (丸子地域案)

主な質疑・意見等

(委員) 過去に他制度の助成があったか事前に調査が可能かどうか。書類では実態調査が難しい場合があるということですのでできるだけ現地調査するとあるが誰がするのか。

(事務局) 申込書に他制度助成について記述する欄はないが、県の元気づくり支援金事業、コミュニティ助成事業等事前に把握・チェックする。その他制度もなるべく把握していきたい。現地調査は事務局では昨年も実施しているが、限られた時間の中だが、委員の皆さんにご足労いただき現地調査をしていきたい。

(委員) いろいろな補助金・助成金が国、県や市であるが、どういう公的な補助金・助成金を受けているかという項目を書いて出していただき、意識的に書いてこなくても判明したら返還するという規定を設ければどうか。

(会長) 元気づくり支援金の助成を受けていた団体が申請した場合、事務局で、前にもらっているから駄目だとならないか。

(事務局) 同一年度の場合は駄目だといえるが、同一年度でない場合は駄目だと言えない。

(委員) 毎年どこかの助成を受けている場合、そこに制約をかける、優先順位を後位にするとかできないか。何回も助成を受けて、なおかつ自立できない事業というのは援助する必要はないと思う。

(委員) 「平均 10点を基準とするが事業内容等を勘案のうえ協議する」とあるが、点数をクリアしたところはまず通すという姿勢でないと説明のしようがない。納得できないところも出てくると思う。一昨年は平均点以下でも通っていたが、今年は平均点を越えていても不採択となった。継続事業については成果があがらなかった事業もあったように聞いている。もっと厳しい姿勢をとらないと一回通ればもらえるという感覚でいられると良くない。

(委員) 今年度、県事業を採択されてさらに同じ事業で市で採択された例がある。丸子ではないが、丸子以外のところはOKなのか。

(事務局) 全市の基準で、資料 6 ページにある対象外事業で「同一年度に国・県、及び市のその他の制度による補助実績または見込みのある事業」については対象外。だが、同じ団体で違う内容のものだとすれば可能性としてはある。

(会長) 上田は条件付採択が多い。丸子地域でも条件をつけてという意見が出たが、全部悪い提案をしていくところはないから、そうなると全部通ってしまう。

(委員) 資料 3 ページの「採択を A、B、C に分けて判定したらどうか」について、もう一度説明願いたい。

(事務局) 特に (B) の部分について、1 年だけのイベントはどうかという意見もあったが、例えば (B) 観光的とかで派手に 1 年だけ開催するイベントも、こういう見方をすれば、可能ではないか。丸子町の住民提案型事業では (A) 地域的・世代的に広がる事業がほとんどで、主に継続性を重視して審査もお願いしてきた。一時的なイベント等は丸子ではどちらかという、この事業にはふさわしくないのではないかという意見をいただいている

が、(B)といった区分けをすれば判定もできるのではないかという提案。

(会長) 現地視察や実績報告会を実施しているのは丸子地域だけで、その点では丸子は継続事業を重んじてきたことは正解だと思っている。

(センター長) 住民提案型事業を丸子が始めたが、その時から、自分たちも負担するが行政の応援もお願いしたいという事業で(A)を重視していくという丸子町のスタンスだった。全市に広げるにあたって、例えば1回限りのイベントでもいいとか、自己負担がほとんどなくても補助金だけで運営してもいいよとなってしまう、丸子町の継続性重視という部分が引き継がれなかったと思う。だからほかの地域では採択されるのに、丸子地域では採択されないというようなことが出てきているのではないか。

(会長) 全体の審査会でも指摘したが、最近の傾向として、申請すればなんでも補助金がもらえるという傾向が見られる。若い団体の皆さんの傾向で、一人の人が5団体にも入っている例もある。団体をやたら立ち上げてイベント的なものが非常に多い。

(委員) 書き方が上手で実態以上にイメージがあって採択したというのもまずいが、実態がわからなくて、地域の活性化しうるものを逆に落としてしまう危険性もある。審査前にできるだけ現地調査をしようというのは非常にありがたい取組みだと思う。応募されるものの中で、明らかに理解しやすいものと、なかなか判断がつきにくいもの、5~10分聞いただけではわかりづらいものについては、できるだけ現地視察も交えてもらうという形で、ぜひ事前の取り組みをお願いしたい。へんなものを採用してしまったというよりも、大事なものを落としてしまう危険性をできるだけ避けるように取り組むべき。応募の仕方が未熟で実際に訴えられることが網羅してなかったとか、予算のつけ方が下手だったとかで落ちてしまうと残念なこと。できるだけ事務局にも事前にチェックしていただき、適正な評価ができるように取り組んでいただきたい。

(委員) ハードは現地視察もできるが、ソフト事業はやっていること自体が視察できない事業も多い。ソフト事業については自治会の推薦か何かをつけると、自治会単位で広範囲に地域の活性化する事業だと見られる。採点について、5段階だが10段階評価はどうか。

(事務局) 5段階評価は全市の対応になっている。

(委員) 3だと「評価できる」、2だと「少しは評価できる」、3平均でいくと15点となる。個人的な意見だと100点満点で50点が採用基準だと思う。そうすると125点が採点基準となる。そういうことをはっきりと論議していただきたい。行き当たりばったり式に採用するとか不採用とするとかではなく、前もって親切な採点法にしておいたほうが良いのではないか。

(委員) 10点以上は通して、以下は落とすと明確にしておけば何も問題ないと思う。

(会長) 125点で落ちたというのは丸子地域ではあったが、皆さんで事業内容を検討して決めてきたこと。内容を審査してということであくまでも点数は基準。

(委員) 内容が駄目だということで落としているが、最初からこれは駄目だと審査会の前に言った委員もいる。そういうことはまずいと思う。そういう意見によって、こんなのは駄目なのかとってしまう人もいる。まずは点数によって仕分けをして、次にその内容とい

うことで良いと思う。団体から聞かれることもあると思う。協議会で決まったことだから、個人の意見はないよと逃げるが実際にどう答えたらよいか。

(会長) ご指摘の点は十分配慮し、そういうことのないようにしていきたい。

(委員) 不採用になったときに、なぜ不採用になったかを申請した人に明確に伝えられることが重要で、なぜ不採用なのかをみんなで確認をしておく必要がある。ただ点数が低かったから不採用でしたということでは、申請した人も納得しがたいところもあると思う。不採用の場合は、どの点が不採用の内容かを明確にしたほうが良いのではないか。

(会長) ただ不採択の場合、誰がどういう意見を言ったから不採択になったというのが、委員から今年、一部漏れたことがあるので、そういうことはないようにしていただきたい。

(会長) 点数は 10 点だとかえってややこしくなるし、全市が 5 点でやっているの、その点ご理解を願いたい。

(委員) 報告会はお互いの団体にとってもいい機会になるし、審査結果等を確認する機会にもなるので、全市的にやる提案はできないか。あるいは専門家によるアドバイザーは可能か。

(会長) まちづくり協働課から丸子地域の報告会や現地調査実施の報告があり、できたら他地域協議会もそういう機会を設けていただきたいという願いはあった。

(委員) やってみたいがお金がないというグループの意欲を育てるとというのが一番の目的で、なるべく間口を広げるという上田市全体の傾向性があると思うが、結果に対してフォローしていくということを実行したほうが良い。お互いにアドバイスする機会を作ってやることは必要。

(会長) 旧上田の場合は、丸子のように公園を造るなどのハード事業があまり多くないので、現地視察はなかなかできない。

(事務局) 報告会は市全体でという話しにはなっていない。そのかわり、各地区の取組みを冊子にまとめて来年、報告書として出していく。丸子も報告会ができる基盤になるまで長い年月がかかっていて、実績を積み重ねて初めて良い雰囲気での報告会ができる。まずは冊子で皆さんにお知らせするという方法を全市では選択している。丸子地域では引き続き、報告会をやっていきたい。

(事務局) わがまち魅力アップ応援事業は、新市の合併特例債 35 億円の果実部分で運用している。限られた財源の中で事業を採択し、地域でおよその目安をもって執行している。丸子はその目安を越えて他地域のお金をいただき 2 年やってきているが、それでもまだ足りなくて、丸子町の持寄分基金 230 万円を取り崩して補助金に充ててきている。全部採択していきたいのは山々だが、新市一体事業としての特色も持たなくてはいけないということで、丸子地域のみ突出していいのかという指摘もある。地域内で解釈を運用しながら、より良い審査ができる体制を、知恵を拝借しながら、ぜひとも作っていただきたい。

(委員) 実績報告会の冊子には、決算書をぜひつけていただきたい。また、結果報告の中で、よくできたということをもっと詳しく回答するのではなく、具体的にいろんな項目に対しての考え等をぜひ書いていただきたい。

(事務局) ソフト事業について自治会の推薦があればというご意見をいただいたが、全部自治会の推薦をいただけるわけでもないし、自治会の推薦がないから不採択というわけにもいかないので、推薦をどう評価するかは委員にお任せしたい。

(会長) 来年 1 月から募集が始まり、3 月には地域協議会で審査を行う。スムーズに審査ができるようまとめていきたい。次回もご意見があったら出していただきたい。

(2) 専門委員会

・カネボウ食堂棟活用検討専門部会について

(事務局) 今までの分散会、専門部会では設置要項を作らないできたが、カネボウ食堂棟については、委員の総意で専門部会を設置するという意味で要項案を作った。すでに前回の分散会で 6 名の委員を選出していただいているので、要項案に基づいて運営していただきたい。設置要項案について説明。

・専門部会委員：生田委員、笹沢委員、成沢委員、本間委員、成沢委員、村松委員

資料：旧カネボウ丸子工場食堂棟活用検討専門部会設置要領（案）

主な意見等

(委員) 専門部会の主たる目的は、旧食堂棟をどう活用していくか、地域を活性化していくことにつながるような使われ方は何かということをもとに検討することで、施設の内容は活用方法によって決まってくる。どういう活用方法が望ましいかを主体的に検討するのが専門部会の内容だと理解してきている。

(事務局) 食堂棟にどういう整備が必要か具体的に分析する必要があるということで要項にあげた。どういうことに使っていくか検討するのは、もちろん先行する話し。

(委員) 調査検討事項の内容を書き換えてもらう必要があると思う。

(委員) 調査検討事項の上にも書いたらどうか。結果的には整備はしないといけないと思う。

(会長) 専門部会でこの後協議をしていただきたい。

・協議会終了後に専門部会を開催する。

・防犯灯 LED 化専門部会について

(事務局) 自治会長の 6 名を委員として選出していただいている。意見書を検討していただきたい。意見書として市に出していきたい。

・専門部会委員：浅倉委員、滝沢委員、滝沢委員、武井委員、竹花委員、宮坂委員

・協議会終了後に専門部会を開催する。

4. その他

・今後の日程について

・次回地域協議会の日程

12月 18日（金曜日）

・その他

・次期地域協議会の公募委員の募集

12月 16日号広報うえだに募集の記事を掲載。公募委員の募集が始まる。

・まちづくり講演会の開催

12月 13日に上田創造館で開催予定。ぜひご参加を。

・わがまち魅力アップ応援事業イベント情報

・依田川リバーフロント市民協働事業について報告

11月 5日に第 1回実行委員会を開催し、今年度の事業計画等を話し合った。来年 2月 18日又は 19日の夕方に市民会議を開催予定。ご出席いただきたい。

5 . 閉会

・引き続き専門部会を開催。

・地域協議会終了後、カネボウ食堂棟活用検討専門部会（第 2会議室）、防犯灯 L E D 化専門部会（第 4 会議室）に分かれて引続き検討。午後 4時を目安に流れ解散。